

金沢大学英文学会 *The Society of English Literature, Kanazawa University*No. 4 *NewsLetter*

2012.10.17

★金沢大学英文学会は、1953年結成。年1回の総会と講演会・研究発表会を開催、学会誌 *KES* は1954年創刊、現在27号を数える。会員のみならず、お変わりございませんか。NewsLetter 第4号をお届けします。本年度の運営委員会がさる4月7日に開催され、本号は、そこで討議された内容をもとに編集されています。

=====

指差しと言語

中村 芳久

金沢大学英文学会は1953年の結成ですが、今年で結成60周年を迎えます。今年度の総会は、これを記念して、2つの講演を予定しています。副会長の谷内輝雄先生(1962年卒)によるご講演「金沢大学英文学会(KES)と金沢」と、谷口一美先生(1992年卒、京都大学)によるご講演「ことばの発達とことばの発達—認知言語学から見た言語習得」です。いずれも大いに期待される内容で、多くの皆様とご一緒に有意義に拝聴できますこと、楽しみにしています。

さて指差しです。それがあまりにも普通の行為、動作であるために、あまり注目されることはありませんが、実はヒト以外の動物は、霊長類を含め指差しをしない。指差しでヒトは、他の動物ができない一体何をしているのでしょうか。

ヒトに特有といえ、ことばもそうですが、とりわけその音声と意味の関係。音声を聞いて意味をイメージすることもあまりにも自然にできるので、不思議に思ったりしますが、その関係は、ガシャーンという音から自動車事故を思い

浮かべるような関係でしょうか、それともワンワンから犬をイメージするような関係でしょうか。はたまたパブロフの犬のようにベルの音から餌を連想するようなものなのでしょうか。

このような場合とは違って、音声から概念をイメージする場合は、音声を発声するヒトの側になんらかのもくろみがあることが考えられます。それが指でモノを指すときのもくろみと同じなのではないか、というわけです。

ヒトが物を指差すとき、他者の注意をそちらに向けようとしている(*directing of attention*)と考えて異論はないでしょう。そしてヒトは、音声で概念を指差ししているというわけです。たとえば「リンゴ」という言うとき、くだものの中の特にリンゴという概念に、他者の注意に向けようとしている、ということになります。そうすると *from hand to mouth*、手振り・身振りから音声言語が進化したという説も成り立ちます。

「あっち向いてホイ」の遊びからもわかるように、私たちは、相手の指差しに無意識に従うようにできていて、逆方向を見ることがむずかしいのですが、この協調の性向が、指差しの前提になっているようなのです。協調し協働する性向は、モノや情報を共有(*sharing*)しようという性向とも連動していて、他者と一緒に同じ物や概念を眺め、モノや情報をシェアしようとする性向がない動物は、指差しもできないし、音声による指差しもできない、というわけです。

協調と分かち合いを基本とするヒトが、時にいがみ合い奪い合うのですが、この解法の力は、ことばにあるのでしょうか。

2012年度金沢大学英文学会 結成60周年記念総会プログラム

(このニューズレターも60周年を記念して、KES創刊号の編集後記を最終頁にコピーしました。故山田梁先生のご退官記念パーティの様子を収めたDVDには卒業生を含め多くの方々のお祝いスピーチが収録されています。そのお知らせもご覧ください。他の情報も、リニューアルされたHPに掲載していきます。)

日時：2012年11月17日(土)

第1部 9:30～12:10

第2部 13:00～16:30

(受付開始は12:20)

懇親会 17:30～19:30

場所：金沢歌劇座 大練習室

〒920-0993 金沢市下本多町6番丁27
(金沢21世紀美術館近く)

tel: 076-220-2501

総会第1部 研究発表会 (9:30～12:10)

9:30～9:55 真木 啓生 (修士課程)

「風語彙研究：認知的アプローチ」

9:55～10:20 向井 理恵 (修士課程)

「[間]と言語構造」

10:20～10:45 小林 隆 (博士課程)

「談話標識 *I mean*: 語用論的・認知言語学的分析」

10:45～10:55 休憩

10:55～11:20 田中 瑞枝 (博士課程)

「着点・経路の空間辞をとる移動事象の認知的分析」

11:20～11:45 松井 葉月 (修士課程)

「オルコットの『若草物語』と『仕事』」

11:45～12:10 小松 恭代 (博士課程)

「同化から多文化共生へー日系アメリカ人のアイデンティティの変容」

総会第2部 (13:00～16:50)

13:00～13:30

開会の辞

総会 1. 会計報告

2. 会の活動報告

3. その他

KES28号献呈

13:30～14:40 講演

「金沢大学英文学会(KES)と金沢」

金沢大学英文学会副会長 谷内輝雄先生
(1967年卒業)

14:40～15:00 休憩

15:00～15:30 二年生による出し物

「KAGUYAHIME」、他

15:30～16:40 講演

「ことばの発達とところの発達

—認知言語学から見た言語習得—」

京都大学准教授 谷口一美先生

(1992年卒業)

16:40～ 閉会の辞



17:30～19:30 懇親会

会場：金沢21世紀美術館内

カフェレストラン Fusion 21

〒920-8509 金沢市広坂1-2-1

(tel: 076-231-0201)

会費：4,500円

《 英文科の思い出、近況 》

★大学時代の思い出

2012年卒 中崎 哲也

金沢大学での4年間はどこを切り取っても楽しい記憶しかないのですが、とりわけ英語学英米文学の研究室に配属されてからは非常に充実した日々を送ることができたと思います。研究室に配属されてからは、認知言語学という全く新しい分野での研究に勤しみ、苦しくも楽しい学生生活を過ごしました。研究室のメンバーと一緒に過ごした時間は本当に大切に、良い思い出として心に刻み込まれています。

2、3年生の時間はあっという間に過ぎ、4年生になってからは就職活動と同時進行での卒業論文に何度も泣かされそうになりましたが、中村先生や堀田先生のご指導のおかげでなんとか書き上げることができました。

講義や卒業論文は当時は辛いと思うときもありましたが、振り返ってみるとやっぱり楽しかったと強く思います。そこから調べる力、考える力などの学問的な知識以外にも多くのことを学べたと思います。英語学英米文学での3年間には本当に感謝しています。

今僕は、公務員として働いていますが、自分が配属された部署がなんと金沢大学と多少のつながりがあるところで、仕事をする際に大学関係者とお話したこともあります。そういった機会は滅多にありませんが、卒業した後でも金沢大学とつながることができることはとても嬉しく思っています。今後仕事を進めていく上でも、このようなつながりを忘れず、日々努力していきたいと思えます。

★今思うこと

2004年卒(修士2年) 向井 理恵

「書く」ということは思いの外、頭の整理になるので、自分に向き合ってみるよい方法だと思います。また、文字を通して、他の人とのつながりもできます。公の場で、自分の個人的な歴史を振り返るのは恐縮なのですが、パソコンに向かっている今、私の思いは過去の点を1つ1つ捉え、現在へと線をつないでいます。

そうしてまず感じるのは、時の不思議、巡り合わせの不思議です。過去の自分は、確かに現在の自分を導いてきたのだなということを感じます。自分の好きなこと、面白いと思うことは、理屈なく自分が感じていることですから本物なのでしょう。そして、たとえ時間や空間に隔てられても、自分の底に確かにあって、自分の道を正直に等身大に照らしてくれます。

私は今、再び大学に戻り学んでいます。そこに向かわせたものは、やっぱり大学時代に味わった、勉強の面白さだったように思います。今でも、最初の授業

のときの、「言葉は外界を写し取る鏡ではない」という先生の言葉を、どきどきしながら聞いていたのを思い出します。認知言語学という、人間の生き方の枠を相対化してくれる学問との最初の出会いでした。

今だから感じるこのことができること、強く惹かれるものがある、それに深く関わることが幸せです。答えは、自分の中、自分の歩いていく流れの中にあるので、これから何が起こるか楽しみです。

★ユキエの時間

—私の気になる映画紹介—

1964年卒 森 恭子

松井久子監督の映画『ユキエ』を見ました。ユキエは戦争花嫁の一人で、アメリカのルイジアナ州に住んでいます。物語の背景には人種差別やベトナム従軍兵士の後遺症、農薬公害問題などが織り込まれて展開しますが、主題はユキエの病気です。台詞は殆ど英語で、ユキエを演じる倍賞美津子のあるときは可憐、あるときは哀愁漂う講演が光ります。原作は芥川賞を受賞した吉目木晴彦著『寂寥荒野』です。

若い時代は愛にあふれた幸せな日々でした。40年以上過ぎてユキエに思いがけなくアルツハイマーという診断が下されます。疲れているだけで、8年前友人に裏切られて資産を失くした事件を解決すれば、ユキエは良くなるのでは…?と、夫のリチャードは考えます。息子二人はもっと現実を見て対応しなければならないと強く説得して、侃々諤々の話し合いがなされます。彼らはユキエの前では問題に触れない心遣いをしています。

ユキエの異常な様子に皆が戸惑っているとき、孫のジェフリーが歌うやや訛った「アメアメフレフレカアサンガ…」の童謡が雰囲気や和らげます。ユキエの病んだ心は次第に二人の若いころへ、少女

のころへ、幼いころの故郷へと還って行くようです。結婚に反対されたため1度も帰郷していません。故郷への想い、父との浜辺での焚火、風鈴の音、母の顔、母からの萩焼…。次男の婚約者ヨーコが萩の実家を訪ねたエピソードも温かな思いやりが感じられます。

隣人のベトナム帰還兵からユキエが「ベトコン! ベトコン!」と指差される場面にはユキエならずとも衝撃を受けます。我が屋を忘れ迷子になるユキエ。珈琲を入れましょと牛乳を差し出される夫の表情。彼女は病を受け入れました。“I have to say slow good-by, OK?” 息子は涙を浮かべながら頷き、母としっかり抱きしめあって帰って行きました。家族がそれぞれ心用意をする過程を情愛をこめた映像で観ることが出来ます。

友人タミエの都合がつかず、ユキエひとりにおいて夫が仕事に出た日のこと。工作中、不安がよぎります。何かを直感して彼がめらめら燃え上がる火の中から彼女を救い出さねばと、仕事を放り出して駆けつけると…。さすが、新藤兼人の脚色です。

折々画面に映し出される大きな振り子時計。二人の時間がまだ流れているのかをリチャードは確かめる必要があります。ユキエが記憶をすべて失えば、二人の45年の歳月は彼の中にしか無くなり、本当にあったのだろうかと自分に問いかけるしかありません。穏やかなほほえみをたたえつつユキエに寄り添う彼の清らかさ。深く、潔い人間性。尊厳という言葉の意味をあらためて思います。『ユキエ』を観たあところの奥深くしみじみとした余韻が残っています。

《平成23年度卒業論文題目》

- 米谷春佳 Reality and Fiction in *Midsummer Night's Dream* by William Shakespeare
堂下春奈 A Study of Sisterhood in *The Color*

- 真茅夏恵 *Purple*
A Study of Metaphor: As a Factor of Untranslatability
相沢周一郎 Even Yahoo can Understand the Identity of *Gulliver's Travels*
大島さやか A Cognitive Linguistic Study of *Before / After* as the Conjunction
海野麻裕 A Study of the Possessive Expression in English
中崎哲也 A Comparative Study of *Think* and *Omow*: A Semantic Approach
廣田 篤 Cognitive Semantics of *No* and *Not*
山下功将 An Analysis of Friendship, Love, Family in *David Copperfield* by Charles Dickens

《平成23年度修士論文題目》

- 松本晃輔 An Approach to Dangling Participial Construction Motivated by Seamlessness
小林隆 The Usage of *I mean*: A Pragmatic and Cognitive Approach

《平成23年度博士論文題目》

- 屈 莉 数量類別詞の類型論的研究—認知言語学からのアプローチ (A Typological Study of Numeral Classifiers: A Cognitive Linguistic Approach)

《第9回スピーチコンテスト 結果》

2011年10月8日開催

- 1位 坂本 亜希子
What I found in the summer school in Korea
2位 阿部 久恵
Try to be beautiful

《留学体験記》

★アメリカに留学して

3年 寺山 里穂

私は約10ヶ月間、アメリカはヴァージニア州の小さな町にあるウィリアムアンドメアリー大学に留学しました。初めての海外、周りがすべて英語ですごくわくわくしたのを今でも覚えています。「英

語が上手になりたい」という一心で飛び込んでいった気もします。最初は周りの留学生や現地の学生の流暢な英語に驚き、自分のいいことが上手く伝えられなくて悔しくて辛いなと思ったこともたくさんありました。でも新しい土地だからこそ、失敗してもいいから何でも挑戦してみようと、そしてゆっくりでもいいから友達に話してみようという初心をずっと持てたのが唯一の強みかもしれません。

留学生活の中心は大学の勉強でした。アメリカの学生の勉強する姿勢にいい刺激を受けながら、落ち着いた環境で勉強ができたこと、何より全て英語で授業に取り組めたことが大変だった半面、充実していて楽しかったです。特に TESL のクラスメイトと一緒にテスト勉強してくれたり、私のペーパーを見てくれたり、本当にお世話になりました。でも逆に英文法の模擬授業のプレゼンの準備をする時は、私がどのようにして習ったのかその友達と話し合っただけで作っていくことができ、少しは自分の経験が役に立ってたかなと思います。

平日は勉強中心でしたが、その分週末は友達とたくさん遊びました。多くの学生が寮に住んでいるので、学校や寮で多く行われていたイベントに遊びに行ったり、日本語ハウスで料理や映画を楽しんだり、友達と NY へ弾丸旅行したりなど数え切れないほど良く遊んだなと思います。また、課外活動で地元の小学校で 1 時間、日本文化体験授業として折り紙を教えに行ったのもとても良い経験でした。

このような楽しく充実した時間の中で、英語を学ばば学ぶほど、また分からないことも出てきて、でもだからこそ面白いなと感じました。これからも初心を忘れず、「楽しく」英語を学んでいきたい、そしてその「楽しさ」を教えられるようになりたいと思います。

★留学で得たこと

4 年 北村 有里

私はイギリスのシェフィールド大学で 1 年間交換留学をさせていただきました。私がこの 1 年間で学んだことは語学はもちろんのこと、それ以上に色々な人による様々な意見を聞いたことで、ひとつのものを色々な角度から見られるようになったことだと感じています。もともと私が英語の勉強を本格的に始めたきっかけは中学生の頃アメリカで 10 日間のホームステイをした時に、文化や言葉の違いでこんなにも違う人の考え方をもっと知りたいと思ったことでした。今回イギリスでたくさんのお話が聞けたことは私にとって素晴らしい財産になったと思います。

イギリスは人々が議論好きなことで有名であること、そして多文化社会であることから、たくさんのお話を聞くには絶好の場所だったと思います。例えば私の友達のイギリス人とアメリカ人が「イギリスとアメリカの蛇口、どちらが優れているか」を熱く議論していました。一見とても些細でくだらないことですが、どちらも自国を誇りに思っていること、そして蛇口を通して見える互いの歴史などを知ることができ、非常に興味深かったです。

また授業も良い機会でした。私がつけていた授業のひとつに、セミナーの前半はその週の課題文学についてペアディスカッション、後半は全体でディスカッションというものがあったのですが、私以外の全員が現地学生の 3 年生でした。最初はその状況に気圧されましたが、「色々な意見が聞けるチャンスだ！」と考え直してからは、同じ文学でも私たちノンネイティブでは思いつけないようなアイデアが聞け、とても勉強になりました。今ではあの環境は勉強するに最高だったのだとさえ思います。

留学生活の1年が終わり日本に帰ってきた今、ものごとをすぐにひとつの考えで縛るのではなく自分に一度待ったをかけ、色んな角度から見直すことが自然とできるようになったと感じています。この留学で得たものは挙げだしたらきりがありませんが、その中でもこのように自身に変化があったことを誇りに思います。

《 2011年度会計報告 》

以下の会計報告は、11月の総会に諮られます。

2011年度金沢大学英文学会会計報告 (2011年4月1日～2012年3月31日)

会計 和泉邦子
会計監査 正木恵美

収入 **2,288,918 円**
(内 前年繰越金 1,485,592 円)
支出 **319,182 円**

2012年度への繰越 1,969,736 円

【収入内訳】	(円)
繰越金	1,485,592
2011年度 KES 会費 (在学生 15 人分)	30,000
2011年度 KES 会費 (振込分、及び山田先生ご遺族より)	617,000
2011年度総会時	
KES 会費(16 人分)	32,000
懇親会費	124,000
利子	326
合計	2,288,918

【支出内訳】	(円)
ニューズレター送付関係費用	72,890
2011年度総会用 お茶代・お菓子代	22,864
スピーチコンテスト 図書券代	21,000
懇親会費用 (金沢都ホテル)	202,008
振込手数料	420
合計	319,182

《 事務局より 》

1. KES28号について

山田梁先生の追悼号となります28号は多数御投稿いただいたおかげで、充実した内容となっております。現在、編集も最終段階に入っております。KESは、当学会の規約に基づき、過去3年以内に一度でも会費の納入のあった方にのみ送付されることになっております。KESをご希望の方で、これまで会費が未納の方は、ぜひ会費の納入をお願いいたします。

2. ホームページについて

金沢大学英語学英米文学研究室のホームページがリニューアルされました。卒業生の柳川三千代さんのご尽力により、大変見やすく、素敵なサイトになっています。金沢大学英文学会のページも、今後益々充実していく予定ですので、どうぞご覧になってください。なお、大学のHPサーバーの変更により、URLが変わりました。新しいURLは以下のとおりです。

<http://english.w3.kanazawa-u.ac.jp/>

3. 会費の納入について

同封の振込用紙にて、2012年度会費2,000円の納入をお願いいたします。今年度は、ホームページのリニューアルに加え、KESも出版されますので、昨年度と比べ大幅に経費が嵩むことが予想されます。ぜひ、会費と共に維持費(一口2,000円)もよろしくをお願いいたします。

なお、今回に限り、維持費を3口以上納めてくださった会員の方全員に、平成2年3月に開催されました山田先生のご退官記念パーティの様子を収めたDVD(横川善正先生ご提供)をお送りします。先生方をはじめ、若かりし頃の懐かしい顔が多数映っております。

当学会の苦しい運営状況をご理解の上、何卒ご協力のほどお願い申し上げます。

4. 総会、懇親会の出欠について

同封の葉書に 50 円切手を貼り、総会及び懇親会の出欠をご記入の上、11 月 14 日 (水)までに届くようご投函願います。事務局宛に E メールでご連絡くださっても結構です。その際、近況もぜひお書き添え下さい。頂いたお葉書 (メール) は、大事に保管し、総会時に閲覧できるよう受付に置いておきます。

◆総会プログラム・ニューズレター発送にあたり、住所 (転居先) 不明の方が増えてきております。住所変更等ありましたら、お手数ですが、事務局までご連絡願います。

◆金沢大学英文学会役員

会長	中村芳久
副会長	谷内輝雄
事務局	堀田優子、中條純子
会計	正木恵美
監査	西多喜代子
将来計画委員	高田茂樹、和泉邦子他
KES 編集委員	堀田優子他
広報委員	柳川三千代
運営委員	柿崎謙一、市川泰弘、田辺愛
院生委員	屈 莉、川島嘉美、小松恭代、 中條純子、田中瑞枝、小林隆、 西門綾子、真木啓生、向井 理恵、松井葉月、大島さやか、 廣田篤

《 編集後記 》

皆さま、こんにちは。お元気ですか？早いもので、今回で NewsLetter も第 4 号になりました。

大変お待たせしておりましたが、金沢大学英語学英米文学教室 Web サイトも無事リニューアル公開させていただきました。

下記にてご覧くださいませ。

<http://english.w3.kanazawa-u.ac.jp/>

こちらは、facebook の金沢英文学会ページともリンクしておりますのでぜひ会員の皆さまの交流に役立てていただければと思います。

何かご意見ご要望がございましたら、遠慮なくいただければありがたいです。どんどん進化させていければと思います。

(柳川)

金沢大学英文学会ニューズレター No. 4

2012 年 10 月 17 日発行

〒920-1192 金沢市角間町

金沢大学人文学類 英語学英米文学研究室

金沢大学英文学会

代表者 中村 芳久

E-mail : kesoffice.kanazawa@gmail.com

新 URL : <http://english.w3.kanazawa-u.ac.jp/>

学会誌*KES*創刊号の編集後記です。